

令和3年度第2回北海道アザラシ管理検討会 議事録

日 時 2022年3月25日（金）午後1時30分開会

場 所 WEB開催

出席者 別紙出席者名簿のとおり

- 議 題
- 1 令和3年度調査事業について
 - 2 令和3年度事業実施計画の実施結果及び評価について
 - 3 令和4年度事業実施計画（案）について
 - 4 北海道アザラシ管理計画（第3期）（案）について
 - 5 その他

議 事

小林座長から議事進行上、議題1と議題2の説明順番を入れ替えるよう申し出

(1) 議題1（令和3年度事業実施計画の実施結果及び評価）について

ア 事務局（杉村主査）から資料説明

イ 質疑応答（有・無）

宮内構成員） 漁業被害聞き取り調査について、年2回程度は実施したほうがよい。新型コロナウイルス禍が続くようであれば、オンラインでの聞き取り調査も検討いただきたい。

小林座長） 大石構成員に聞くが、礼文島の捕獲、有害駆除の頭数が近年は減少しているが、理由として、アザラシがいないのか、アザラシの逃げ足が速いのか、漁に出る日が少なくなったのか、あるいは、アザラシが減少したことによるハンターの意欲低下があるのか、どれに相当するのか。

大石構成員） 礼文島のトド島は劇的に減少した。昨日も調査したが、例年であれば、すでに100頭程度いるが昨日は10頭程度しかいなかった。

そのような状態であるので、ハンターの意欲はあっても、獲物がいない状況。今後も調査を実施する予定だが、捕獲についてはどうなるかは分からない。また、減少している原因も不明である。

小林座長） アザラシの逃げ足が速いとか、気づいて海へ落ちることは見られるか。アザラシの逃げ足が速いため、撃てないことはあるか。

大石構成員） 撃てないことはないが、アザラシがいないから、ハンターの意欲が上がらないことはあるかもしれない。

小林座長） 事務局に聞くが、混獲頭数において、これはゴマフアザラシだけか。

事務局 杉村主査） ゴマフアザラシのみである。

小林座長） 根室地域が増えているが、どの漁業組合で混獲頭数が増加しているのか。

事務局) 調べて後ほど報告する。

小林座長) 漁業被害額は、ゴマフアザラシとゼニガタアザラシをどのように分けているのか。

事務局) 道水産林務部において、漁業協同組合に直接確認している。目撃のある種類が多くなっていると聞いている。

小林座長) これは、漁業組合単位で分けて、この漁業協同組合はゴマフアザラシ、この漁業協同組合はゼニガタアザラシのように分けているのか。

事務局) そのとおり。

小林座長) 根室地域のある漁業協同組合は全てゴマフアザラシによる被害金額であると理解してよいか。

事務局) よい。

オブザーバー 上村北海道漁業協同組合連合会環境部長) 野付漁業協同組合の昨年のサケの定置網漁時期のアザラシによる被害がこれまでに比べて多いという話だが、具体的数字はあるか。

事務局(杉村主査) 具体的な数字は聞いていない。

オンライン機材の関係で、議題3の令和4年度事業実施計画(案)について説明することになった。

(2) 議題2(令和4年度事業実施計画(案))について

ア 事務局(杉村主査)から資料説明

イ 質疑応答(有・無)

山村構成員) 「1 周年定着個体数の管理について」の「(2) 個体数の削減目標について」の2段落目に「冬期間のみ滞在する回遊個体数の削減により漁業被害軽減効果、及び資源回復効果が高いものと考えられ」という文言について、この記載があるということは、アザラシによって何らかの資源が、回復が必要な状態まで減ったという事実がなければいけないと思うが、そういう事実を把握しているのか。

事務局(杉村主査) 特段、聞いていない。

山村構成員) このように記載すれば、アザラシを殺して、その食べ代を減らすことによって資源を回復させようという考え方になる。

何らかの事実報告がなければ、事業実施計画にはこのように記載しないほうがよい。被害軽減という記載だけで目的としては十分であるので、削除することをご検討願いたい。

小林座長) 私が礼文島で聞いた例だが、ホッケが産卵に来るときにアザラシが邪魔をする。個体数が減れば資源回復という意味合いもあると思い、そのように記載した。

山村構成員) 伝聞ではなく、科学的な報告がなければいけない。そのよう

に記載するのであれば、データを取って上で報告し、記載した方がよい。
小林座長) ごもつとも。漁業被害軽減効果にそれも含まれてもよいと考える。
事務局で削除は可能か。

事務局 山中主幹) 削除は可能だが、この文言について、ほかの構成員の意見等はないか。

大石構成員) 被害がなければ削除してもよいが、過去に、急に増えたり減ったりした例があった。全ての文章を削除し、のちに、さらに増加したときにどうなるのか。

小林座長) それでは、「被害軽減効果」は残し、「及び資源回復効果」から削除するというのでよいか。

大石構成員) それで、よいと思う。

小林座長) また何かそういう事実があったときに調査をし、何らかの科学的な根拠が得られたときに改めて記載するという可能性もあるので、ここは削除する方向とする。

後藤構成員) 反論ではないが、削除すると、次の行の「漁業被害の軽減と資源回復を図ること」という文章も変えたほうがよいのではないか。

山村構成員) その部分もあわせて削除でよい。アザラシを減らしたから資源が回復するという理屈は、今のところは成り立たない。

(特記事項)

小林座長から他の構成員に異議があるか確認。なかったことから事務局に削除するよう確認。

事務局 山中主幹) 1の(2)の2段落目の「冬期間のみ滞在する回遊個体数の削減により漁業被害軽減効果が高いものと考えられ、北海道沿岸の周年定着個体数を削減することにより、個体群の存続に影響を及ぼすことなく、漁業被害の軽減を図ることが最も現状に則した対策と考えられる。」と修文してよいか。

(特記事項)

小林座長から他の構成員に異議があるか確認。なかったことから事務局案で修文。

山村構成員) その上の1段落目の2行目に「冬期北海道回遊群に影響を及ぼす可能性は低いものと考えられる。」とあるが、この部分は、数を減らすわけで、影響がないわけではないので、「大きな影響」と記載した方がよいと考える。

小林座長) 冬期回遊個体数が増加すると周年定着個体も増加するので、そこから派生しているということは事実。

山村構成員) 考え方として、冬期個体群もそれなりの悪さをするため、影響

があること自体は悪いことではない。言葉として、冬期個体群の存続に……。小林座長) 「大きな」というのもおおまかな表現なため、山村構成員が後に言った「存続に支障を与えない」と表現するほうが良いと考える。のちほど、事務局から修正案を作成し、他の構成員の示していただきたい。

(3) 議題3 令和3年度調査事業) について

ア 事務局()から資料説明

イ 質疑応答(有・無)

山村構成員) 天売と焼尻で二峰形のピークが2回あったが、これらの個体識別情報はあるのか。

もう一点、事業報告資料に追い払いや採捕をすると個体数が減る傾向が認められたとあったが、それに関して具体的なデータはあるのか。

小林座長) まだ推測の域を出ないが、天売と焼尻の冬の個体(N数8程度)に発信器を着けると全ての個体が間宮海峡に帰る。春の個体につけると、全ての個体がオホーツクに帰る。それもN数は少ないが、冬の個体と春の個体が入れ替わっている可能性が高いと私は考えている。

また、駆除となれば、アザラシはすぐにはなくなるが、次の日に岩礁などに乗っている。定点カメラではどこを効果として見るかが難しく、データとして出すには難しいところがある。

駆除が多く行われる場所ではないところを使う傾向は見られている。季節変動が変わるなど。それが本当に駆除の影響かと言われると分からない。因果関係を結ぶのが非常に難しいと考えている。

本日話した夏期個体群は8月から10月でよいのか、過去の情報を調べ、どう変わるかも含め、皆に情報提供し、また議論をいただきたいと考えているので、そのような現象があることを承知していただきたいと思う。

後藤構成員) 実施計画の表1に夏期確認個体数の一覧があり、声問・宗谷は6月のデータを用いたとしているが、これが夏期とされる8月から10月に調査が行われた場合、多くなるのか、少なくなるのか、どちらなのか。

小林座長) 少なくなると考えている。調査の限りでは、宗谷は冬と6月がピークで、10月を入れると分からないが、8、9月はさらに少なくなると考えている。

(4) 議題4 北海道アザラシ管理計画(第3期)(案)について

ア 事務局(杉村主査)から資料説明

(特記事項) 資料説明後事務局から補足

イ 質疑応答(有・無)

事務局(山中主幹) 1点、補足。前回検討会で第3期の計画(案)の議論をしたが、資料5の11ページの「7. 2. 周年定着個体」の5行目に「また、周

年定着個体の削減は、冬期間のみ滞在する回遊個体数の削減よりも漁業被害軽減効果及び資源回復効果が高いものと考えられる。」、また、後段の「個体群の存続に影響を及ぼすことなく漁業被害の軽減と資源回復を図ることが、最も現状に則した対策と考えられる。」という文言を記載している。この部分について、前段の文言の「及び資源回復効果」を落とし、「このことから」の段落についても、「と資源回復」を落とし、「漁業被害の軽減を図ることが、最も現状に即した対策」と、先ほどの提案と同じく修正したいと考えている。意見をいただきたい。

山村構成員) 賛成である。

小林座長) 上段の「個体群の存続に影響を及ぼすことなく」という文言も同時に検討していただきたい。「このことから」の先であるが、その前の「周年定着個体は、冬期北海道回遊群から分離したものであり、これらを削減することによって、個体群の存続に影響を及ぼす可能性は低い」という表現と「及ぼすことなく」という表現が二つ書かれている。

事務局 山中主幹) 令和4年度事業実施計画のところで、「周年定着個体は、母集団である冬期北海道回遊群から派生・分離したものであり、周年定着個体の削減が派生源である冬期北海道回遊群に影響を及ぼす可能性は低いものと考えられる。」という表現だったが、そこもこの表現に合わせ、令和4年度の実施計画も「冬期北海道回遊群の存続に影響を及ぼす可能性は低いものと考えられる。」と提案したいと考えている。令和4年度の事業実施計画もこちらにあわせ、提案したいと考えている。

事業実施計画については、構成員の意見を反映するが、管理計画は、年度中に決定しなければならないことから、上の表現はこのままで、令和4年度の事業実施計画をこちらに合わせる、「資源回復効果」の部分は削除ということですすめたい。

(5) 議題5 その他

ア 事務局から資料説明 なし

イ 質疑応答 (有・)